
擬態するケダモノの呟き

保坂 朔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

擬態するケダモノの呟き

【Nコード】

N7753P

【作者名】

保坂 朔

【あらすじ】

草食の続編？です、デート先での司君の心情です

（前書き）

草食の読切り短編です、デート先での司の心情について

「草食系男子の恋愛は期間が長くて愛情深いのが特徴なんだって」

雑誌の中身を丁寧に聞かせてくれているのは僕の可愛い婚約者の皐月。今日は紺色に白の水玉のワンピースを着てとても清楚に見えるけれどストローを口にしながら話す唇はピンクでふっくらしていても色っぽい。毎日のように会っているこの自分でさえハッとすることがある

「じゃあ、肉食系は？」

「わからないですね、書いてないし」

はい、とその女性ファッション雑誌を僕に寄越して化粧室へ行ってしまった、不愉快なことにさっきから

彼女に視線を送っている新しいバーテンダーが彼女の後ろ姿を眺めている店内の数人の男客もだ。ここに連れて来るんじゃないかといった自分への苛立ちと他の男の賞賛を仰ぐ彼女が自分のものだという満足感に胸中は複雑

薄暗い店内にジャズが流れている革張りの椅子にバーラウンジ今夜のデートに音楽の趣味の合う男同士でよく来るこの店を選んだ

ムーディな時間を過ごせると思っていたのにとんだ誤算だった、彼女は始めて来たジャズバーにとっても喜んでいたけれどいかんせん男が多すぎるし雰囲気がいり過ぎた

店内に数席しかないラブソファのあるテーブルを予約しておいて良かったすっかり目を離そうものなら彼女はたちまち声を掛けられているだろう汗をかいたグラスの中身を一口含むと度数の高い蒸留酒が胃を焼く、彼女が寄越した雑誌に書いてある草食系の記事を読ん

で「司さんってどっちなんですか？」なんて無邪気に聞いてこないでほしい

切ないピアノの音

恋愛に疎い恋人を持つのは楽しいが一步間違うとこちらが翻弄されてしまう無邪気なだけに始末が悪い

腕時計を確認するまだ21時店を変えるにしてもどこも混んでいるホテルにいつてもいいが・・・

顔を上げると彼女があのだバーテンダーと話していたおいおい、何顔を赤くしているんだ？困った様子で受け流し俺の隣に滑り込んできた彼女の肩に腕をまわす

「何、話してたの？」

あれ？もう酔ったのか？こんなに嫉妬深い男だったか？俺（一人称が変わってるし）

皐月の耳に口を寄せて囁いた

「司さんがこのお店に女の人を連れて来たの始めて見たって、仲良しですねって、冷やかされた」

真っ赤になったままの可愛い俺の皐月

「・・・うん、君が第一号、気に入ってる店には同僚でも女の子は連れて来ないんだよ」

俺ってゲンキンだ、自分でも顔が緩んでるのがわかる

「ちょ、ちよっとつ司さん！」

思わず抱きしめてキスしてしまった、バックに囃し立てる声が聞こ

えるが構うもんか

「もつつ口紅取れちゃった」

「大丈夫だよ、綺麗だから」

「何それ意味わかんない」

そう、君はわからなくてもいいよ僕がちゃんとわかっている。君が綺麗になった理由なんて。

急に上機嫌になった司に呆れつつもまあいいかと納得する皐月だが調子に乗って彼女の腰を引き寄せて手で撫でる司に皐月から

「触り方いいらしいから止めて」

等と結構辛辣にやられているが「また、この店に彼女と来よう」とまんまと乗せられている彼は幸せだった

（後書き）

昨日upしようと思っていたのですが眠りこけていました（汗）

他作品も含め、お気に入り登録して下さった方、読んで下さってる方、感想下さる方

いつもありがとうございます

ノベルの書き方なる本を数冊購入したのですがほとんど読まないまま短編upしました、開いた途端に眠くなったのは私が勉強する意欲がないからなのか？今回も煩惱の赴くままに走ってしまいました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7753p/>

擬態するケダモノの呟き

2010年12月31日19時06分発行